



繪本清水の池  
中

特別  
A4  
8200  
2









けせうて

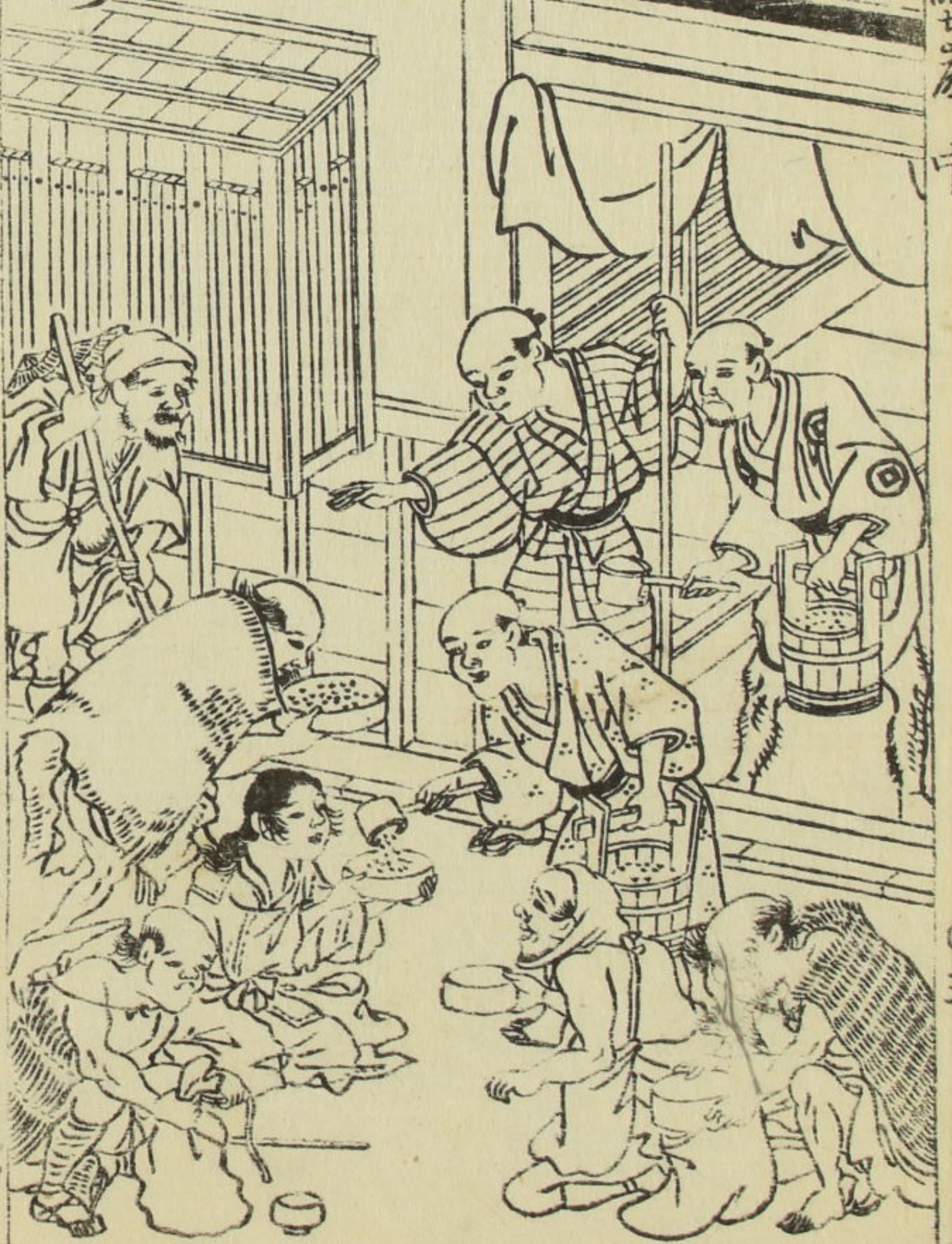
物のあはれ

あら

まぐさ

なご

さんご



少くも人の財を以てして己の財を積むは君子の財を欲し  
強ひて取らざるも貧窮死生の境を以ていかにすべしと云ふは  
と云ふあり財を以て己の財を積むは君子の財を欲し  
あつて力を以て不仁者の財を以て己の財を積むは君子の財を欲し  
ずる所の民を以て不仁者の財を以て己の財を積むは君子の財を欲し  
不仁者の財を以て己の財を積むは君子の財を欲し

救すぬ

身を

よ人の

心を

つら

情



予執人となつてのころは儀のあつても世にあらざるを以ていかに論ずるべし  
たりかたきをさふぬこそ海防世談仁義の心をあらはれ給へ









人のきこ

かひら

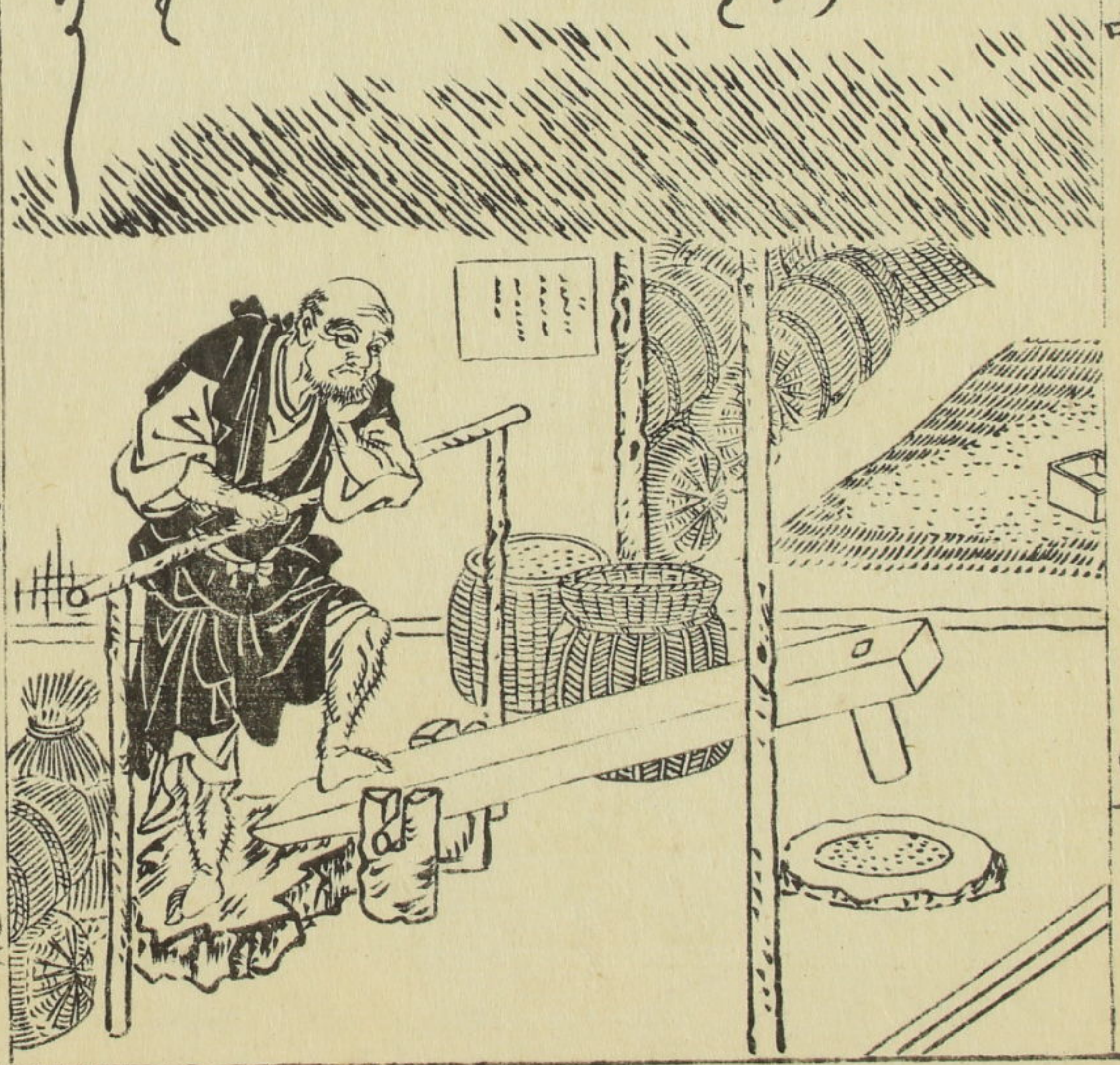
正さげ

うらばの

能の

あり甲斐

たり



万能の心志にたると云々... (Vertical text on the left side of the right page)

賤しき

んをつね

きま

うら

身を

あざ



いしつらふの氏... (Vertical text on the left side of the left page)

新編海防中

志願

いそぐ

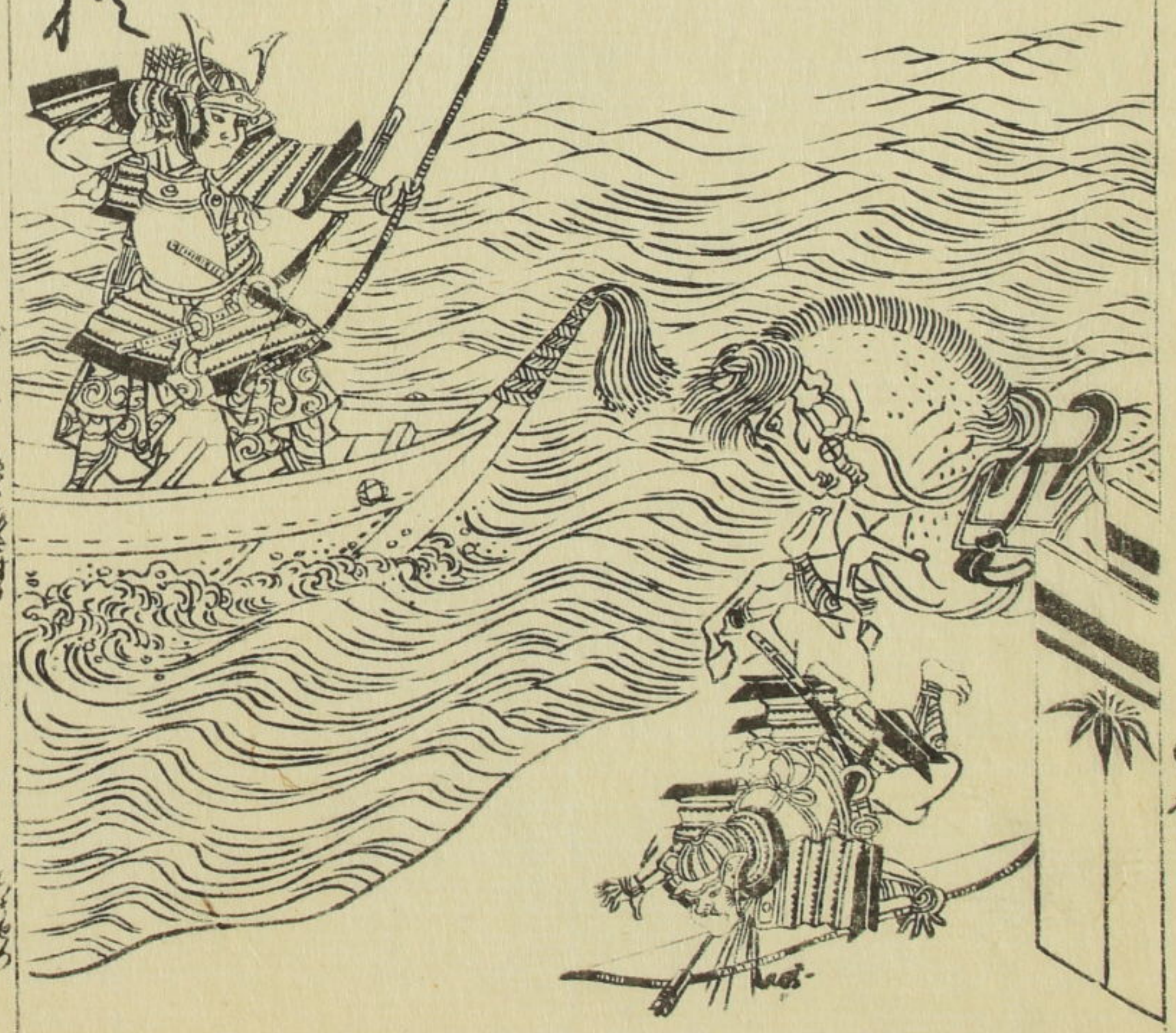
あさ

よき

舟の

ちりちり

みせ



人ほふるにいふ人の悲劇... 舟のちりちりみせ

不ろり井上

ろろり

思ひ

みらの

き

人いづる

+



舟のちりちり... 舟のちりちり

あつはる  
まのい  
うま  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる



人の下と権部をいひてをるいんやまをいふるのそと無とわん情を  
あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる  
あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる

ワツガ  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる  
あつはる



世に後なるや、権部にあつはるいんやまをいふるのそと無とわん情を  
あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる  
あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる

上よりと<sup>ふれい</sup>かれと

うき

腹をい

我より

ト

公

あらん



けりの上りの大孝の書小物類のりりて天下國家と治るの要なり  
トれすもあまきまきもけりをを繩結してしんををさうりてふるたけりやあ  
といふもいかり我よりとるけりいんもよきなり故に我りやあをいんもよ  
まうけり我よりとるけりいんもよきなり故に我りやあをいんもよ

子瓜を

親を

みやを

や

者

人といふん



それをして父母よりつるのまじい徳徳は子百家の書いのりて徳徳の六徳は  
大徳も其別をうけけりいんもよきなり故に我りやあをいんもよ  
孝の徳もいんもよきなり故に我りやあをいんもよ  
小徳もいんもよきなり故に我りやあをいんもよ  
いんもよきなり故に我りやあをいんもよ  
おんもよきなり故に我りやあをいんもよ





茶室

茶室

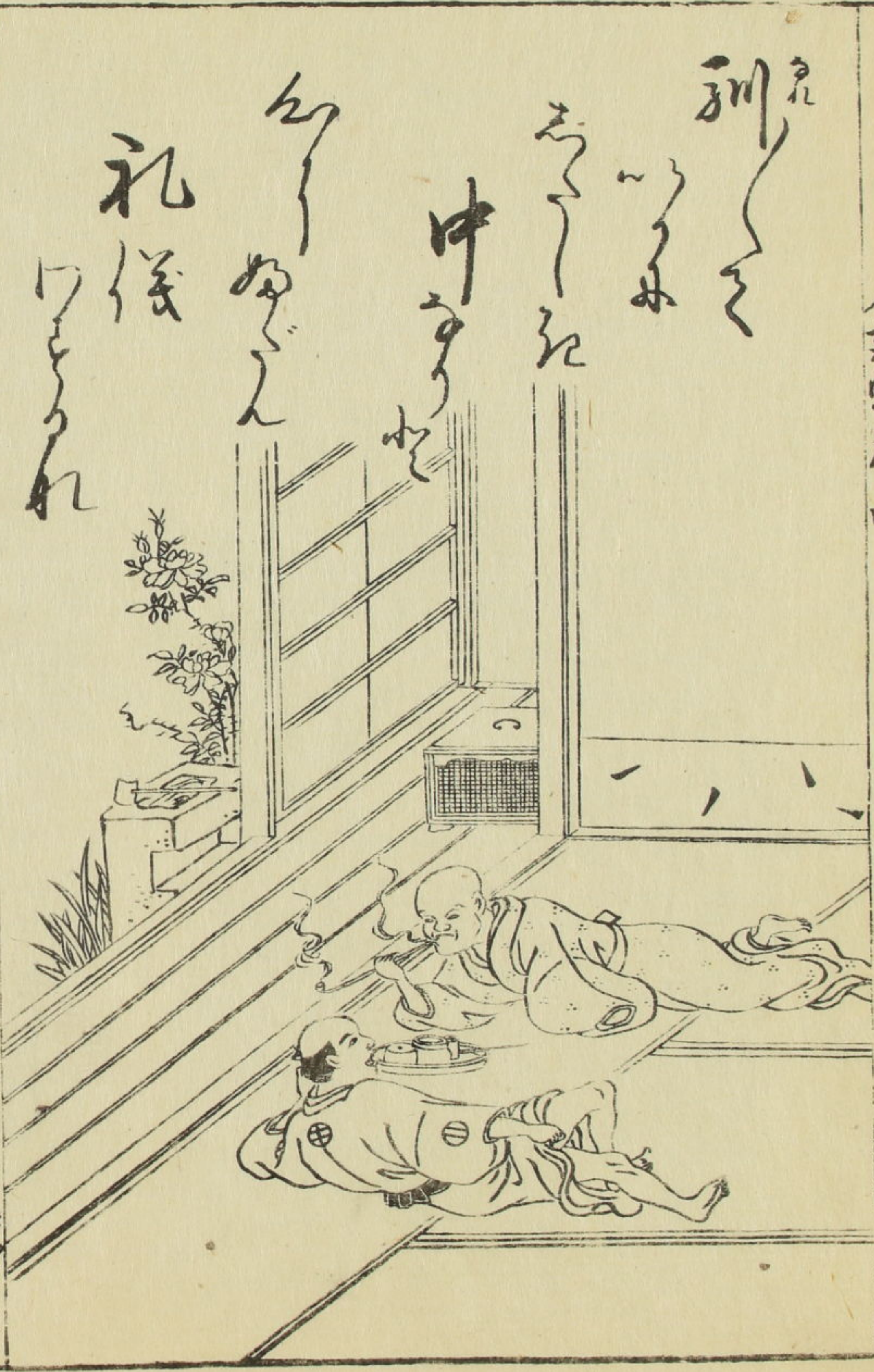
茶室

茶室

茶室

茶室

お茶を人懐かしの間よの氣づいてとたがひも感熱かたはらしてこれ儀作はが  
りどちてくを重んじていぬ氣はゆるるたさまはらふよとくを所承忍れ儀  
を足していぬ氣かたり新さ中はれわるといふもたかたうか



茶室

茶室

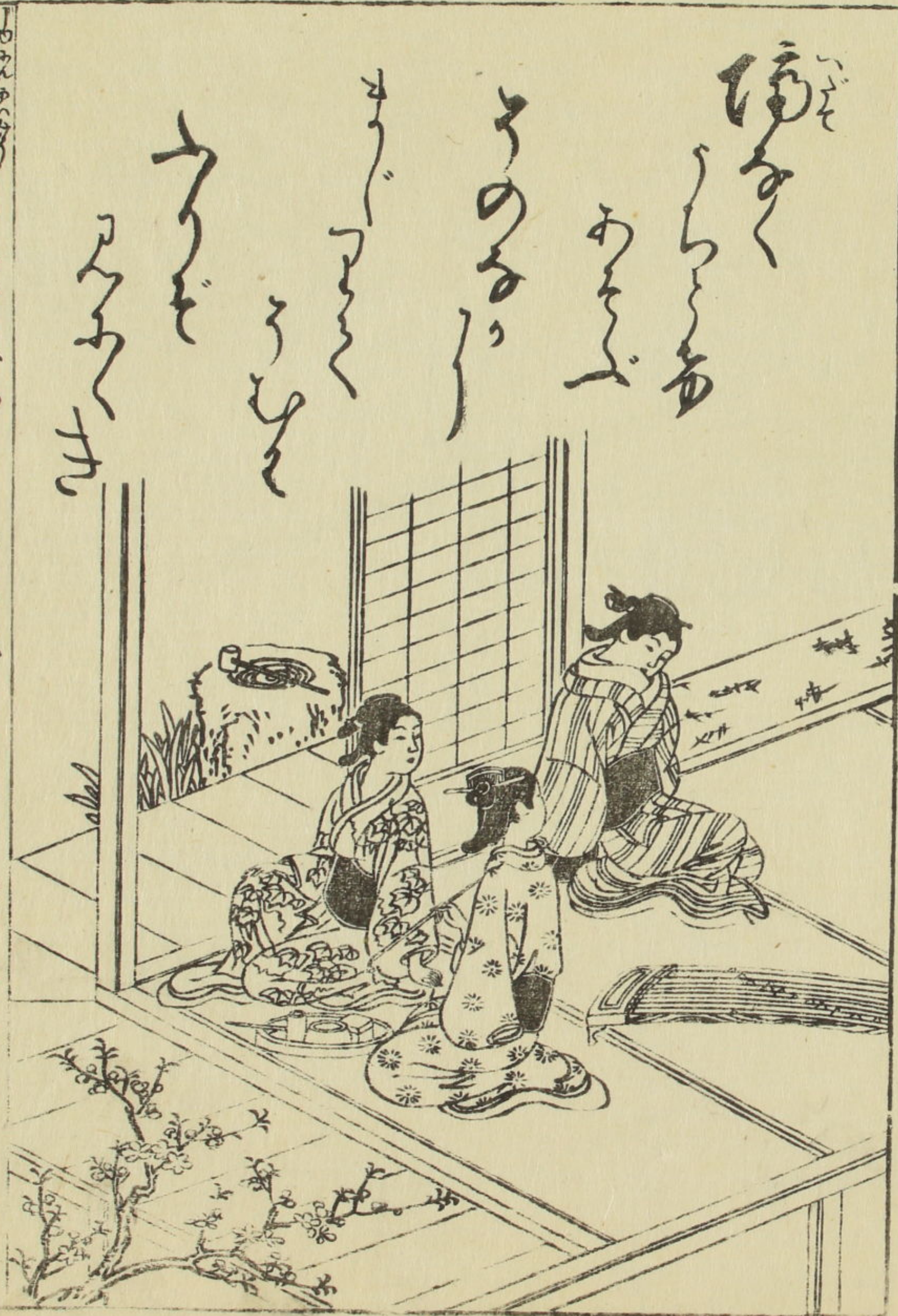
茶室

茶室

茶室

茶室

お茶を人懐かしの間よの氣づいてとたがひも感熱かたはらしてこれ儀作はが  
りどちてくを重んじていぬ氣はゆるるたさまはらふよとくを所承忍れ儀  
を足していぬ氣かたり新さ中はれわるといふもたかたうか



角の糺うど

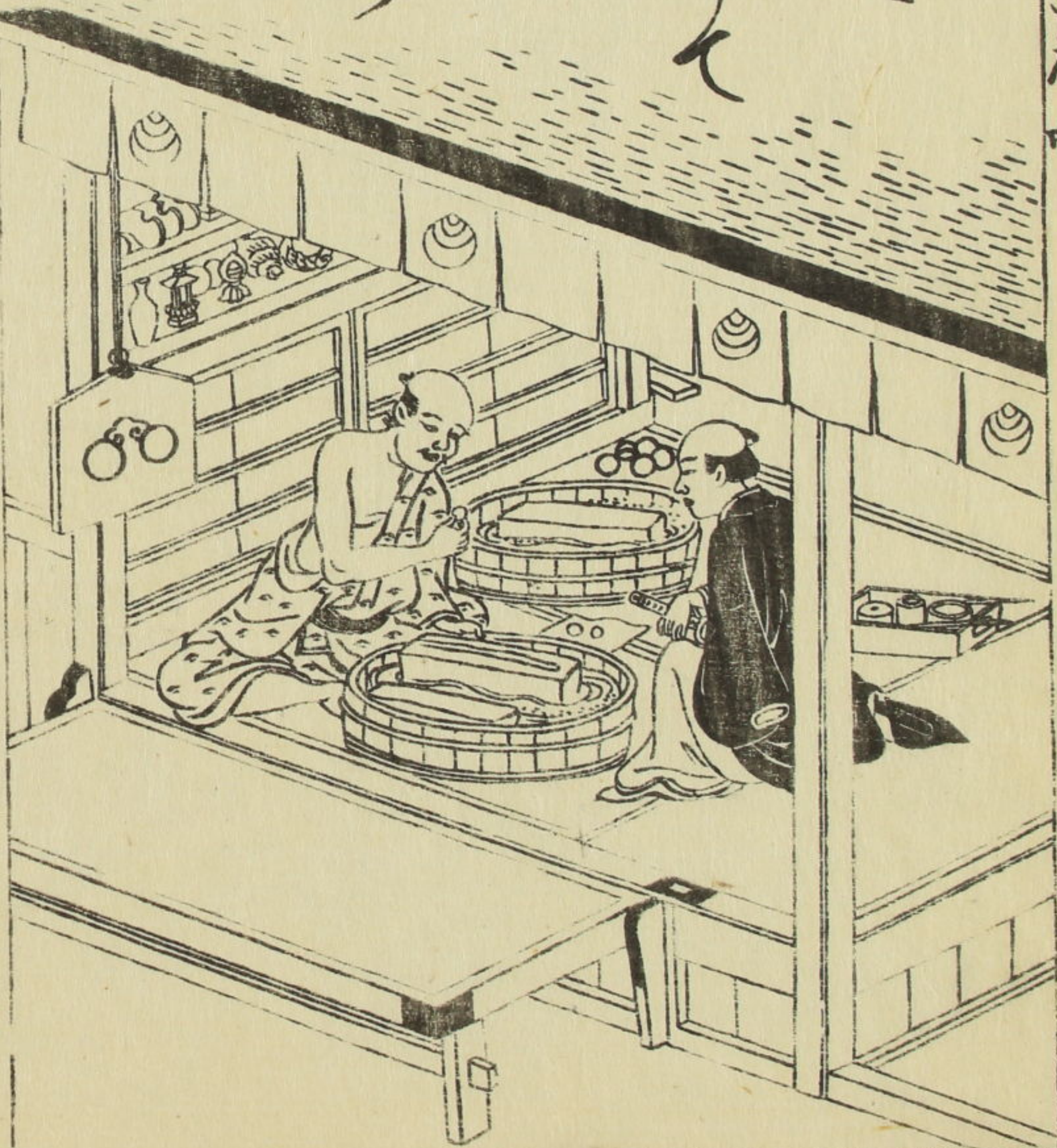
物のさうりて

ひらや

うら

まうと

せよ



おしとわふ角うやれいふららのあまさうりていひらうく人のあもいぢまら  
くさくされいといるあはてあまうらひんをさきいふまうくことしてが  
あのとらりてあまうらひんをさきいふまうくことしてが

人いふ

まう

うら

我

うら

うら



角の糺は人のあもいぢまら  
くさくされいといるあはてあまうらひんをさきいふまうくことしてが  
あのとらりてあまうらひんをさきいふまうくことしてが







月口鼻

まにわらぬ



古今くあつたてれ後とてうまのい種い人の中ゆいもかいる年物猫小い...  
 まにわらぬのほごうらけいものなりものねをまぶす

一 西川祐信繪本歌

三冊物合巻五冊分  
 皇徳二十一年

一 同右上げ五歌入

作唐の以書有る

一 徳本・秘事書

全巻七冊  
 西川秋法画

一 沂伽繪本様

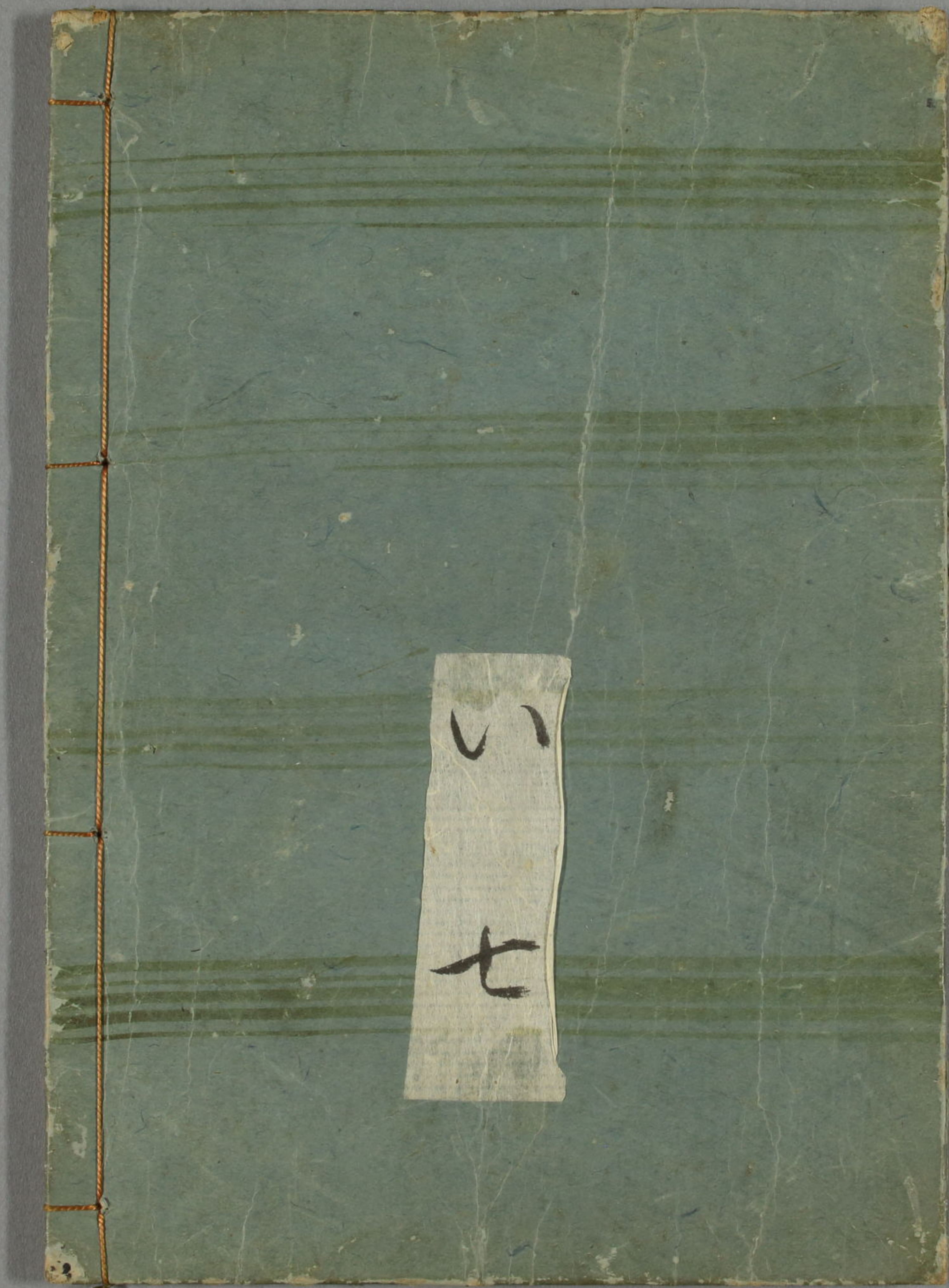
前編五冊 後十冊  
 後編五冊

いろく合冊後存様

一 其外二冊物二冊物も用巻由進物皇元承いろくま  
 右巻列繪本後書む可前封物もわし本武忠様  
 其外拾二巻向物有といひのまじり物も小くわしき後存二  
 亦方いれさゆきま書林もくわすの書人てりて作

本邦書物色本集上二丁目

鳥居元忠の繪本



二七